

赤ちゃんの予防接種

ママの悩み

いろんな予防接種があるけど、全部注射したほうがいい？

プレママ、ママたちの疑問・悩みに、子どもの城・小児保健クリニックの巷野先生が答えます。



Q「母子健康手帳を見ると、赤ちゃんのうちから予防接種の種類がいっぱい！これって、全部受けさせないといけないもの？」

A「赤ちゃんは大人と違って、感染症の原因となる細菌やウイルスと戦う免疫力がないので、体を守るためには人工的に抗体を入れなければなりません。特に、乳児が感染症にかかるると重い症状になる可能性が高いので、早めに予防接種を受けて、病気を防ぐことがとっても重要。今のお母さんたちにとっては、BCGやポリオなどはあまり馴染みのない感染症なので、予防接種をしなくても平気と思っている人も多いですが、

昔はこれらの病気による乳児の死亡率がとても高かったのです。今の日本ではほとんど患者はいなくなりませんが、それはワクチンが発明されたから、患者が減ったことによります。法律で決められていた予防接種が「任意」となりましたが、これは決して、受けなくてもいいという意味ではありません。法律で決められていないなら受けなくていい、というお母さんが増えれば、また感染症が流行する可能性が高くなります。母子健康手帳に載っている予防接種の種類に、必要のないものや優先順位などはありません。成長時期に合わせて

順に受けさせるよう、お母さんたちも意識を高めることが大切です」

Q「かかりつけの医者と総合病院、どっちで受けたほうがいい？」

A「まず、予防接種には2種類あって、BCG、ポリオ、三種混合、しかし、風疹などの『定期接種』は、国の法律により受けなければなりません。この中でBCGとポリオは保健所などの各自自治体で一斉に行うことが多いです。一方インフルエンザ、おたふくかぜ、水ぼうそう、B型肝炎など病気の流行に合わせて受けさせるのが『任意接種』。開業医でも総合病院でもかまいませんが、かかりつけの医者で受けるほうが、子どもの体質をわかっているのが安心ですね。予防接種を受けさせたあとは、まれに発熱するなど体に異変が起ることもあるので(下記コラム参照)、その場で30分程度休ませて様子を見ましょう。予防接種で病気を防いで、健康な体づくりを心がけてあげてくださいね」



巷野悟郎(こうの ごろう)

東京大学医学部卒業小児科医。現在、こどもの城・小児保健クリニック院長、(社)母子保健推進会議会長、(社)日本保育協会理事。『赤ちゃんが書かせてくれた—小児科医からママへの手紙』(赤ちゃんとママ社)『ところがホッとするnew育児法』(講談社)『0歳児・1歳児・2歳児のための乳児保育』(光生館)『保育保健の基礎知識』(日本小児医事出版社)など多くの著書を執筆。



ゴロー先生の本日のつぶやき

予防接種をすると、当日あるいは翌日くらいに発熱したり、発疹が出たり、注射部位が赤く腫れたり、また体質によってはアレルギー症状を起こす場合があります。これは副反応といって、ある程度予想されている症状ですが、ワクチンも改良されてきているので現代では少なくなりました。たとえ反応がでて一時的なものがほとんど。もし予想していなかったような激しい症状が現れた場合は、副作用のことも考えられるので、医者の診療を受けてください。